

COFFEE COLUMN

ジャカランダ農場を駆け巡るカルロスさん 馬、トラクター、フスカ、そして自分の足で

ジャカランダ農場主であつた故カルロスさんは、時間を見つけては農場を見て回り、土や葉、コーヒー樹の状態を観察していた。農場全体といつても、それがコーヒー農場ともなると広大な面積となり、大変な労力が必要となる。丘陵地帯にあるコーヒー園は、急斜面を走る道が多く、舗装されていない赤い土の道は、雨が降ればすぐにぬかるんでしまう。

でも、そんな悪条件のなかでも、カルロスさんが運転するフォルクスワーゲン（通称フスカ）はものともしない。カルロスさんはサンパウロの街中でも、ミナス州に広がる大平原でも、この愛車を自由自在に乗りこなし、様々な活動に従事していたのだ。

そして、車では行けない場所へは、カルロスさんは馬を使って移動



力強くどこでも進むトラクター



馬で農場を見て回るカルロスさん

した。私も何度か乗せてもらったが、高いところにあるコーヒーの実もよく見える。でも急な坂を下るときなどは、真逆さまに落ちていくような感じで恐ろしかったが、馬はいつも同じペースで静かに歩いてくれた。馬に乗ると視線が高くなり、遠くまで見渡せて、とても気持ちがいい。

ただ、そんなふうに見て回るだけじゃ、コーヒー園の仕事ではない。苗木や堆肥、収穫したコーヒーの実を、丘を越えて運搬する作業が大変なのが、そこで登場するのがトラクターだ。大きな荷台に時には作業する人たちをたくさん乗せて力強く進む。

それでも、倒木などで進めなくなるときがある。やはり最後は人の足だ。カルロスさんは力強く踏み出し、前に進む。思えば、サンパウロに



ぬかるんだ道でも進むカルロスさんのフスカ

るカルロスさんは物静かなジエントルマンな雰囲気だった。ジャカランダ農場で仕事をするカルロスさんは元気があふれ出ている、生き生きとしていた。様々な乗り物で農場を駆け巡り、観察し、そして歩く。そんなカルロスさんを見ながら、私はいつも「カッコイイな」と思っていた。

(ウインドファームスタッフ
矢野宏和)